

防府・中関小など結び

人と命、大切さ学ぶ

東日本大震災語り部・伊藤さんから

防災とボランティアの日の17日、防府市浜方の中関小学校の6年生約1300人が、東日本大震災の語り部活動に取り組む宮城県南三陸町の伊藤俊さん(74)から人とのつながりや命の大切さなどを学んだ。

日本赤十字社宮城県支部が全国の青少年赤十字加盟校を対象に取り組み震災を経験した語り部の生の声を届けるライブ配信で、同校と徳島、兵庫の計3県3校の児童約490人が参加。南三陸町と各校をオンラインで結んで実施した。

伊藤さんは南三陸町で「震災を風化させないための語り部バス」のガイドなどで語り部活動を行い、震災の経験や災害に対する備えの重要性などを伝承して



いる。
配信では、自宅が大津波に被災し冷蔵庫が天井に突き刺さった写真などを示し、「自分がこんなに大きな災害に遭うとは思って

いなかった」と備えが十分でなかったことを明かした。救済物資のおかげで生まれ間もない子どもら家族で生き延びられたことを紹介し、「たくさんの物や思い出を失った。人と人とのつながりや命の大切さが分かった」と強調。「東日本大震災のことを忘れずに次の世代へ伝えることが、大切な人を守ることにつながる」などと防災に対する備えを万全にするよう呼びかけた。

6年4組の村田佑都君(12)は「震災はとても怖い。聞いたことを家族に話し、食べ物などを保存して災害に備えたい」と話した。

東日本大震災の語り部活動に取り組む伊藤俊さんからオンラインで震災当時の話などを聴く中関小学校の6年生17日、防府市浜方

「防災学習
JRCオンライン語り部
LIVE2022」

令和5年1月18日
山口新聞